

の讚は最後の10行に見えるやうに、大聖慈父を一切善衆が普ねく尊奉し、同どもに大法に歸すといふのであるから、題名の通眞歸法というのは耶蘇の變貌奇蹟を言ふのではなく、慈父が億兆の民を救ひ、善衆が眞に通じ法に歸したのを讚美するの意ではなからうかと思ふが、今は深くこの問題に入らず、たゞ佐伯博士の解釋を紹介して置くに止めたい。

この讚について、この外二三注意すべき點を述べると、第一には所謂ループリックの最初に、敬禮瑜罕難法王位下ニとして、Yohanan の名を掲げるのは、ペリオ發見の尊經にも、三位の次に列擧した豫言者使徒等の劈頭に瑜罕難法王を掲げたのと併せ考へて、景教に於て如何に Yohanan を尊崇したかを推知するに足ることである。

次には13—14に「以テ次誦ス」として掲げてある三經が、このまゝの順序で前記の尊經の目に見えることである。この中第一の天寶藏經が如何なる經であるかは、尊經に於けると同じく依然として不明であるのは遺憾である、Moule 氏はネストル教で Gaza 即ち寶 Treasure と稱せられる日課經 Breviary に當るかと思はれるといひ、佐伯博士は使徒ポーロの書翰の翻譯せられたものであらうかと疑を存してゐるが、何れも確證を有してゐるのではない。

第二の多惠聖王經が、聖詩即ち Psalm であることは既に説かれたこと④で疑ない。

第三の阿思瞿利律經は、多分尊經に阿思瞿利容經と記されあるものゝ誤寫と思はれる。ところで尊經の「思」は字形の類似のために、摩尼經典の寧萬經が、尊經に寧思經と誤寫せられてある例から推すと、これまた「萬」(mw'an) の誤寫らしく、果して、然らば、阿萬瞿利容經=A-mw'an-gu-'li-'un' で、吐魯番出土のソグドやパーラ